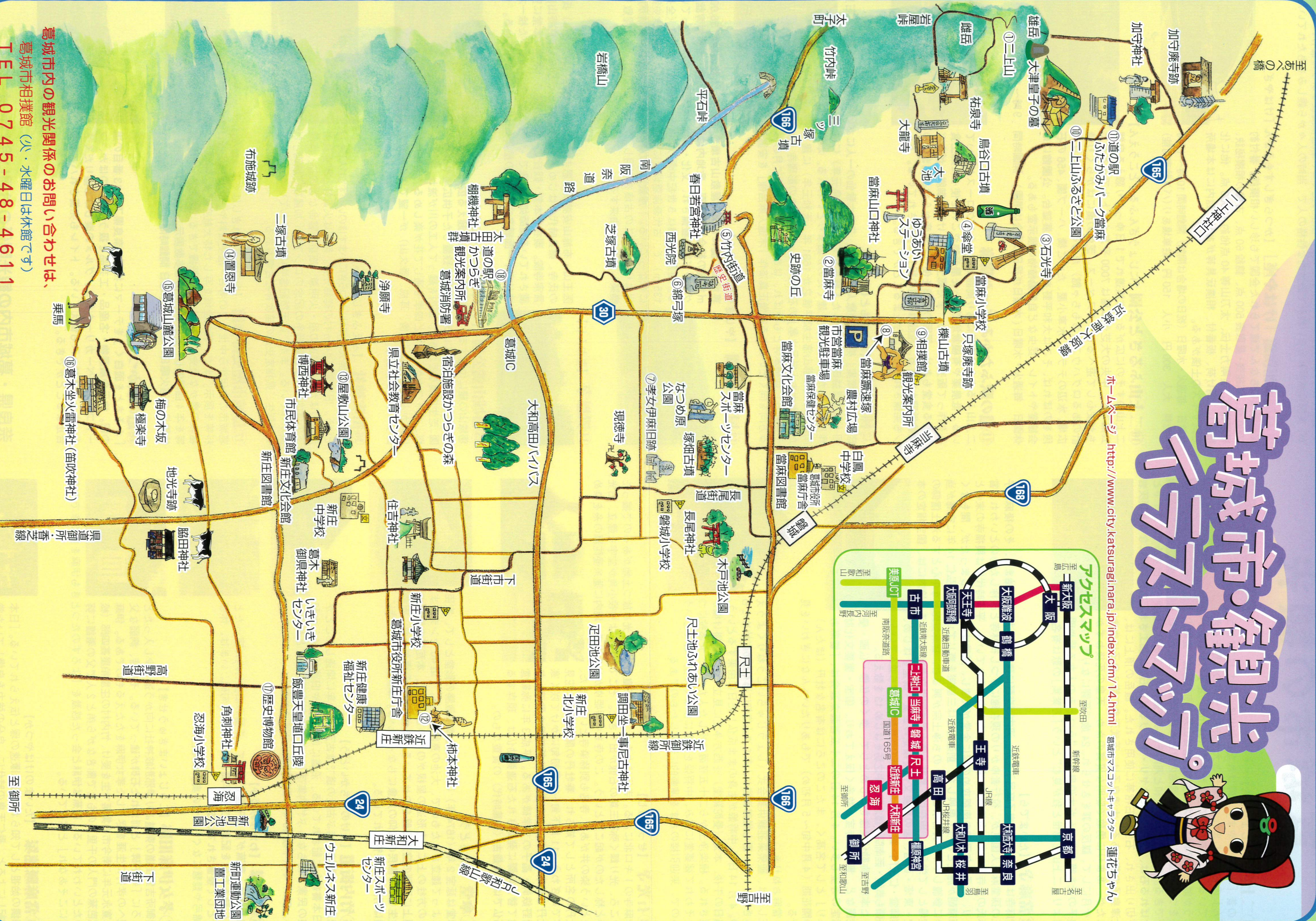
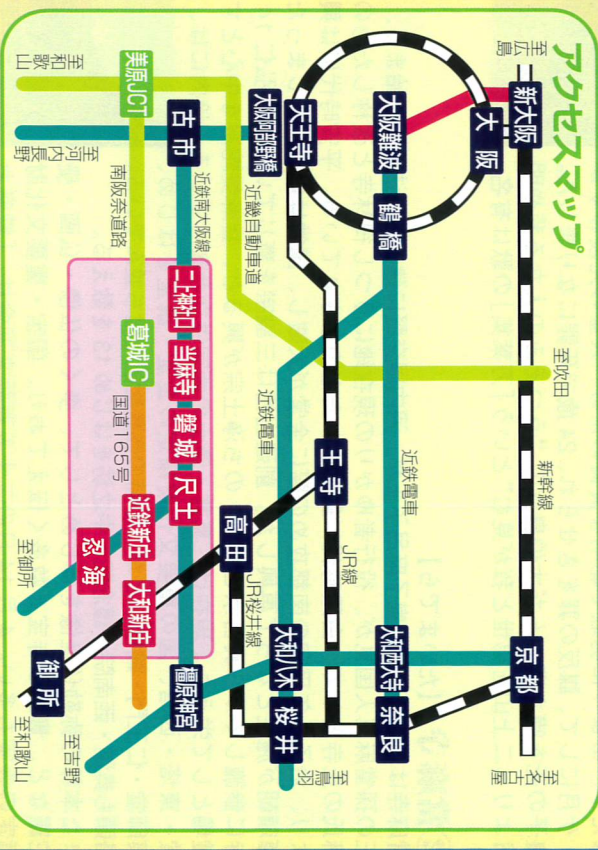


葛城市観光マップ



ホームページ <http://www.city.katsuragi.nara.jp/index.cfm/14.html> 葛城市観光キャラクター 蓮花ちゃん



葛城市内の観光関係のお問い合わせは、

葛城市相撲館 (火・水曜日は休館です)

TEL 0745-48-4611

〒639-0276 奈良県葛城市當麻 83 番地 1

葛城市の観光

①二上山

【にじょうざん】その昔「ふたかみやま」と呼ばれたこの山は、今は「にじょうざん」の名で親しまれ、葛城市と大原府の太子町の境界をくぎっている。山に向かつて右手が雄岳（517m）。左手の少し低いほうが雌岳（474m）で北の生駒・信貴山系と南の葛城・金剛山系をつなぐ位置にあり奈良盆地のほとんどの場所から見ることができる。また古くから大和と河内を結ぶ交通の要所であり、山から産出するサヌカイトとよばれる石は、縄文時代にはヤリ・ヤヅリなどの石器に加工され、古墳時代になると凝灰岩が切り出され、石室・石棺等に使用された。雄岳の頂上には、大津皇子の墓がある。大津皇子は、天武天皇の第3皇子に生まれながら、あまりに勇敢で聡明な素質のため、天皇の死後わずか1ヶ月にして、謀反の罪をきせられ、24歳で死罪になりました。皇子の死を嘆き悲しんだ大伯皇女の“うつそみの人なる我や明日よりは二上山を弟世と我が見む”という「万葉集」の歌は有名。



②當麻寺

【たいまでら】當麻寺は、用明天皇の皇子麻呂子王が、河内国交野に建てた万法藏院に始まり、その後麻呂子王の孫當麻真人国見が、役行者ゆかりの現在地にうつし禪林寺と改称したものといわれ、當麻氏の氏寺として、白鳳時代に創建されたものとされている。平安時代には興福寺の末寺となり、治承4年平家の南都攻めの際に金堂が大破し、講堂は焼失してしまっただが、間もなく源頼朝が施主となって再興した。創建当初は三論宗を奉じていたが、弘仁14年に空海が当寺に参籠してから真言宗となり、のち浄土宗が興ると、當麻曼陀羅を中心とする浄土信仰の霊場として栄えた。現在は、真言・浄土の両宗併立となっている。境内には、国宝指定の本堂・東塔・西塔、国の重要文化財指定の金堂・講堂をはじめ、薬師堂・仁王門・鐘樓などが、独特の伽藍配置で建ち並んでいる。塔頭も奥院・西南院・護念院・中之坊をはじめ13を数える。また本尊の弥勒仏坐像をはじめとして、多くの仏像・仏画・曼陀羅など、貴重な寺宝を数多く伝えており、国宝・重要文化財指定の寺宝も多い。4月14日の二十五菩薩来迎会は、「當麻おねり」として名高く、またこのころには有名な牡丹（ぼたん）の開花期（4月中旬～5月初め）でもありたいへんなごわいを見せる。



當麻おねり

正しくは、聖衆来迎練供養会式（しょうじゅうらいごうねりくようえしき）といい、恵心僧都源信が大衆を浄土信仰に導くために始めたものの。4月14日は、中将姫が生身のまま成仏した日に由来するという。当日の午後、本堂（曼陀羅堂）を西方浄土に見立てて長い掛け橋が渡される。極楽浄土から二十五菩薩に扮した人たちが、介添役につきそわれて娑婆堂に進み、中将姫を蓮合に乗せて浄土へ導くというもので、来迎引接のさまを演劇的に表現したものである。



③石光寺

【せつこうじ】當麻寺の1キロ北にある。寺伝によると、天智天皇の時代、光を放つ土地があるので掘ったところ、光り輝く弥勒三尊の石像が出てきた。そこで勅願により役小角が堂宇を建立、石光寺と称したのが起りという。この寺も中将姫ゆかりの寺で、境内に蓮糸曼陀羅の糸を染めたという染の井があり、寺名も別称染寺という。また、牡丹の名所として知られ、春牡丹の開花期には花見客でにぎわう。11月下旬～1月初旬にかけて咲く寒牡丹も見事である。また境内には折口信夫歌碑、与謝野鉄幹・晶子の文学碑がある。平成3年に弥勒堂建て替えの際に発見された石造弥勒仏は、現存する石仏では日本最古（白鳳時代）の貴重なもの。



④傘堂

【かさどう】傘堂は延宝2年（1674年）に郡山藩主本多政勝の影堂として、家臣によって建立されたもので、大地の東岬にある。1辺40センチあまりの方柱の上に、方形造の屋根がのる珍しい形で、本瓦葺の屋根の頂上に瓦製の宝珠露盤をのせている。また、いつの頃からか、安楽往生を願う庶民の信仰の対象にもなっている。傘阿弥陀は石光寺に、鐘は明円寺に保管されている。



⑤竹内街道

【たけのうちかいどう】飛鳥の都と難波を結ぶ古代の道で推古天皇21年に開通したことが「日本書紀」に記されている。沿道には古社寺や旧蹟が多く、大和棟の民家たちならぶ竹内集落は、今なお昔の面影をとどめている。2017年（平成29年）日本遺産に認定された。



⑥縮弓塚

【わたゆみづか】縮弓塚は、芭蕉が門人千里をつれて、千里の旧里竹内に宿ったときに詠んだ句を記念し文化年間に建てられた句碑。いまは、休憩所として整備されている。



⑦孝女伊麻田跡

【こうじよいまぎゆうせき】旧御所吉野街道の県道より伊弉那岐神社に向かう道を少し入ったところに「孝子碑」と刻まれた石碑が建っている。その昔、病弱な父親への孝行に生涯を尽くした孝女伊麻をたたえるものである。伊麻は寛永元年に南今市の集落で生を受け、竹内村の庄屋柏屋甚四郎（松尾芭蕉の門人の千里）のもとで働きながら弟と2人で父の看護に努めたといわれている。芭蕉は伊麻と会った感激を「よるずのたつきも伊麻を見るまでのことこそあなれ」と述べている。



⑧當麻蹶速塚

【たいまのけはやづか】相撲の始祖として知られる當麻蹶速の塚と伝えられている。「日本書紀」によると、垂仁天皇の時代に、自分の強力を自慢していた當麻蹶速と出雲の野見宿禰とを天皇が力比べさせた。これが日本初の天覧相撲となり、蹶速は脇骨を蹴り折られて死んでしまった。



宿禰は蹶速の領地を賜り、命をおとした蹶速の墓が當麻に建てられた。これが現在まで貴重な遺跡として残されている五輪塔である。伝承の上では、蹶速は高慢なように言われているが、実際は都ずれしない素朴で野性的な性格の人で、当時の人々から親しみをもたれていた。

⑨葛城市相撲館

【けはやざ】當麻蹶速にちなんで建てられた全国でも珍しい相撲館。番付約1000点、取組表・皇取表500点、錦絵60点、古書の相撲秘訣、相撲起頭、金剛力士伝、木刀山等40点他約10000点。他に化粧回し、明け荷、板番付、相撲玩具等があり、館内には本場所と同サイズの土俵がある。休館日 毎週火・水曜日（祝日の場合は開館）開館時間 10時～17時 入館料 大人 300円 小人 150円 駐車場あり（バス駐車場可能）



⑩二上山ふるさと公園

【にじょうざんふるさとこうえん】二上山のすそのに広がる、家族連れで1日ゆっくり憩える自然公園です。中央の大芝生広場は7000平方メートルで子どもたちが安心して遊べるビッグスペース。芝生の奥にはからくり時計のあるロウハハウス（おもちゃ館）がある。そのほかわんぱく広場、水辺のテラス、水車小屋、たいご橋、ハーブ園、456の石段をのぼれば、そこは大和平野を見わたす展望台。公園館には会議室やトイレ、昆虫など自然動植物の展示室もある。休園日 毎週火・水曜日（水曜日が祝日の場合は開園）開園時間 9時～17時 駐車場有り



⑪道の駅ふたかみパーク當麻

二上山ふるさと公園横にあり周囲はハイキングコースが続いている。低農薬や有機栽培で作った農産物やこれを使った郷土食品を作って販売している。また郷土料理「けはや御膳」が食べられる食堂もあり、周囲の田畑を使って生産から食品化までの体験学習もできる。施設は「道の駅」に指定されている。トイレも完備されバスも数台止まることができ。



⑫柿本神社

【かきのもとじんじや】祭神は「万葉集」第一級の歌人と呼ばれ、三十六歌仙の一人にあげられる柿本人麻呂。石見国（鳥取県益田市）で没した人麻呂を770年（宝亀元年）に改葬して、かたわらに社殿を建てたのが始まりといわれる。本殿南側には大和郡山藩主松平信之が1681年（天和元年）に建てた「柿本大夫夫人麻呂之墓」の石碑がある。境内続きの影現寺（ようげんじ）は柿本寺とも呼ばれ、はめ込み式の首が夜に月の出る方向を向くといわれる紀僧正真清作「木造人麻呂像」を安置。



⑬屋敷山公園

【やしきやまこうえん】葛城山の麓にある、屋敷山古墳を中心とした総面積約58,000㎡規模の総合史跡公園。敷地内には中央公民館・市民体育館・グラウンド等が整備され、文化・スポーツ活動の拠点となっている。屋敷山古墳は5世紀中頃の築造とされる前方後円墳（全長195m）で、古代豪族葛城氏に關係するといわれ、国指定史跡にもなっている。「屋敷山」の名は、江戸時代に桑山一晴が紀州より移り、この古墳を利用して陣屋（新庄城）・武家屋敷を構築したことに由来する。



⑭置恩寺

【おんじ】医王山・布施山安養院置恩寺。布施氏（置始（おきぞめ）氏の氏寺。奈良時代のはじめ、行基が創建したと伝える高野山真言宗寺院。現在は本堂・観音堂・庫裏がある。本尊は本堂に安置されている薬師如来坐像で、観音堂に安置されていた桧一木造りの十一面観音立像が国の重要文化財に指定されている。



⑮葛城山麓公園

【かつらぎさんろくこうえん】葛城山の麓に位置する、敷地面積12.1haを超える広大な緑地公園。敷地内にはアスレチック遊具を設置した子供広場やツバキ園、芝生広場などがある。園内を縫って人工の川が流れ、ツツジ、桜、シヤクナゲ、萩など四季を通じて花が楽しめる。大和平野に浮かぶ大和三山（叡傍、耳成、香久山）が一望できる絶好のロケーションにある。



⑯笛吹神社

【ふえぶきじんじや】正式には「葛木坐火雷神社（かつらぎにいますほのいかずちじんじや）」という。旧忍海郡14カ村の総鎮守社。祭神は火雷神と天香具山彦尊のほか、笛吹連の祖・火明尊、高皇産霊命など四神。拝殿下の境内には、日露戦争の記念のロシア製「加農攻撃城砲」が置かれている。また、県天然記念物に指定されているイチイガシが群生、県指定史跡の笛吹神社古墳もある。



⑰葛城市歴史博物館

【かつらぎしれきしはくぶつかん】葛城市の古代から中世までの考古・歴史資料や、近代の民俗資料等を展示。また、葛城全域を写した特大航空写真パネルは、葛城の豊かな歴史的環境が一目で把握できる。さらに、特別展等を年4回開催し、貴重な文化財を多数展示している。休館日 毎週火曜日、第2・4水曜日 開館時間 9時～17時



⑱道の駅かつらぎ

【ふるさとを面白く】をテーマに掲げる奈良県下で13番目の道の駅。地元の農産物・名産品・工芸品を扱う直売所のほか、フードコートやベーカーも備え、グルメの楽しみも盛りだくさん。キッズスペースも備えている。トイレも完備されバスも数台止まることができ。



奈良県・葛城市内の観光関係のお問い合わせは、

葛城市相撲館（火・水曜日は休館です） TEL 0745-48-4611
葛城市商工観光課（土・日曜日と祝日はお休みです） TEL 0745-44-5111